

まえがき

本学は昭和十五年四月、浄土真宗東本願寺の門主夫人・大谷智子裏方の発願によって、光華高等女学校が設立して以来、今年で六十四年を迎え、現在では、幼稚園から大学、大学院を擁する、京都では数少ない女子の総合教育機関として発展してきました。

このように本学が発展、充実してきた背景には幾多の要素、理由が指摘できるように推測されますが、そのなかでもっとも大きな理由として考えられるのが、本学の拠って立つ、親鸞聖人の教えに基づく建学の精神を体した教育実践を、全教職員が学生とともに一体となって、根気強く努力してきた精神力ではないでしょうか。

その建学の精神は校訓「真実心」に集約的に込められている。その「真実心」の内容を、本学園が発行する「『建学の精神』と教育方針」から抜粋してみましよう。

真実心――

「眞実というは即ちこれ如来なり。如来は即ちこれ眞実なり」と、仏陀（釈迦）は明言する。すなわち、眞実心とは、われわれをこの世に送り出した如来の心のことである。

われわれが眞実心を拠所として生きるとは、自己を超えた仏の透徹した眼にっねに問いかけ、自我に偏しがちな現実生活をたゆまず浄化して行くことを意味するのである。

すなわち、光華女子学園は、いのちの光る眞実の学園である。

この「眞実心」の意味するところから、本学が今日の進展を勝ち得たのは実は、「自我に偏しがちな現実生活をたゆまず浄化して行く」実践努力を持続してきた結果にほかならなかつた、と理解できるでしょう。

ところで、このような意義深い宗教的謂をもつ『眞実心』第二十五集がこのたび、刊行される運びとなりました。収録内容は五編。そのうち、わたしの学長講話は人生論で、宗教論からは少し外れますが、そのほかの四先生の講話はいずれも宗教に深くかかわる講話ばかりです。まさに『眞実心』に収録するのにふさわしい好論のオン・

パレードと言えましょう。各講師の先生が独自に歩んでこられたご自身の人生と、それに深く裏打ちされた専門分野に焦点をしばっての各論には、われわれがこれまで経験することのできなかつた、言わば未知の知的好奇心を刺激するともいふべき宗教世界の展開が、あますところなく見られます。

どうかこの『真実心』に語られる諸講話に、今度は読者として深くかかわって、各講師の語られた宗教講話から、みなさんがこれから歩む人生に必要な手がかりを、貪欲に吸収して、その結果、みなさん各自の人生がより豊かになるよう、わたくしは希望してやみません。

京都光華女子大学・

同短期大学部

学長 三村晃功